

細目と稱して人名其他の件名索引を添へたるが如きは特に著者の用意を多とせざる能はず、其記事往々冗雜に互り通史の名に副はざるの嫌あるも、名雖籍乎歷史之體實兼寓於布教之用といへる自序に顯みれば深く問はずして可ならん。只著者の取材は未だ多く地方に及ばざるが如く、今夏伽椰知異二山に於ける余が史料採訪の跡に徴するも頗る採摭すべきものあり、著者にして若し異日更に博く史料を岸等諸山に搜りて本書の闕漏を補へば完璧たるを得べきか。(京城新文館發行、價六、五〇)(三浦)

●對外美術大觀 第一輯
史料美術大觀

文學士永山時英氏が長崎縣立圖書館長の職にありて、餘暇蒐集に努めたる對外關係の史料中其優秀なるもの、百數十種を採擇して、玻璃版に附したるものなり。長崎の地が中世末より近世期を通じて要津又開港場として我國史上の一要地なるは言ふを須ひず又此の關門によりて我國文化の發達上重要なる外國文化の流入したるを以て著者此處に留意し、從來此種の編纂なきにあらざるも何れも完全ならざるにより、此地を中心として汎く全國に亘りて資料を集め、以て史學研究の資に供せんとすると共に一般好古の士に其志を分たんとしたるものなり。

本輯は第一編西洋諸國との關係史料、第二編東洋諸國との關係史料第三編美術史料、第四編長崎地理史料に分類し、第一編の首

には「安土桃山時代より徳川幕府時代に於ける西洋諸國との交通及貿易史概要」を載せて天文十二年葡萄牙人の渡來、サビエルの傳道より寛永の鎖國、幕末開國等に至る一般情勢を叙し、寫眞版には松浦伯家所藏の松浦隆信、鎮信の兩木像、三百年前の河内浦の景を始めとし、平戸の關館、醫術皆傳卷、油絵を有せるサンシュアン寺の杉板戸、島原亂賊徒の旗の如き趣味あるもの多く、又踏繪、出島關館等の如きまで多方面に亘りて之れを蒐めたり、

第二編東洋諸國との關係史料に於ても、編首交通貿易の概要を説き、徳川初期海外貿易家荒木、末次氏等の船繪より唐館繪卷物、清文鑑和略等を集め、第三編美術史料に於ては、陳元登、費隱、隱元より司馬江漢、呂紀、饒翁等の支那畫洋畫多く、長崎地理史料にては寛永の長崎地圖より、天和延享明治大正のものを採れり。各圖何れも和文及び英文の簡明なる解説を附し、用意周到なり、かくて長崎を中心としたる我國對外關係の一大圖鑑を見るを得せしめたる編者の勞の多大なるを謝せざるべからず。(非賣品)(西田)(長崎市鍛冶屋町藤木博英社 價一五、〇〇)

●國史研究年表

文學博士 黑板勝美著

近く國史の研究の改版を公けにせる著者は更に同書に附屬すべきものとして、本書を上梓せり、本書は菊版百二十八頁の小冊子なれども、何等歴史的記述なき年次を省略せる事、歴史的記述は